2019 年 4 月 5 日
中小労組春闘推進会議

２０１９春季生活闘争　３月内決着の成果を踏まえた ４月段階の取り組みに向けて

１．連合は、4 月 5 日に第 3 回回答集計（4 月 3 日午後 5 時時点）を発表した。
　発表内容は、回答引き出し状況として平均賃上げ方式総額集計（全体・加重平均）で 6,412 円・2.15%であり、300 人未満の中小労組では、5,232 円・2.07%となっている。「賃金引き上げの回答引き出し状況は、全体・中小労組（300人未満）共に昨年同時期を上回っており、賃上げの流れが力強く継続している。」としている。

２．フード連合の回答情報 No.1（3 月 31 日締切 4 月 4 日公表）における回答引き出し状況は、平均賃上げ方式総額集計（全体・加重平均）76 組合で 5,800 円・2.03%（2018 春闘最終集計 6,330 円・2.23%）となっている。特に、300 人未満の中小労組では 42 組合で 4,582 円・1.86%（同 4,399 円・1.80%）、100～299 人の中小労組では 20 組合で 4,660 円・1.86%（同 4,388 円・1.76%）となっており、昨年を上回っている。
　経済や事業の先行き不透明感、過去 5 年間の賃上げ状況等を理由に厳しい交渉が続いている。しかし、各組織の状況や組合員の思いを背に粘り強い交渉を展開した結果、6 年連続の賃上げや、これまで獲得が難しく念願であった賃上げを獲得した等、成果も多くみられている。
　特に、「人材確保・流出防止」に関する課題解決が待ったなしの状況下において、今こそ「人への投資」が必要であることは経営も理解するところであり、厳しい交渉を乗り越え大きな成果を獲得した中小労組の収拾結果も報告されている。

３．フード連合の 4 月段階の取り組みについては、これまでのフード連合の収拾結果や 4 月 5 日に行われた連合「2019 春季生活闘争　4.5 共闘推進集会」の確認事項を踏まえ、下記の通り取り組むこととする。

未解決組合は、これまでの先行組合の成果を土台とし、要求根拠（喫緊の課題の具体的解決や、目指すべき賃金水準への到達の必要性など）にこだわった力強い交渉を展開し、て、可能な限り早期に回答を引き出す。

今後も引き続き、本部・ブロック局と、グループ大手組合、及び業種別部会が連携しながら未解決組合の交渉状況を把握し、中小労組春闘推進会議にて集約、課題を整理した上で具体的、かつきめ細やかな支援を継続・強化していく。
また、グループ大手組合や業種別部会等の大手組合の、関連する中小労組に対する支援強化に資する必要な情報を速やかに開示すると共に、連携・調整を図りながら、「賃上げの拡がりによる格差是正」の波及にこだわり、最後の最後まで共に闘う。

以　上